がんばってます神戸の農業　ＮＯ．１０　淡河町(中村編)

多彩な農産物の生産が行われ、多様な農村地域がある神戸市の農業委員の地元を順次紹介していきます。

今回は北区の淡河町とそこで頑張っている農家の相良行博さんをご紹介します。

淡河町

神戸市北部の丹生・帝釈山系の北側に位置し、町は三木市に接し、当該地区を東西に主要地方道三木三田線、南北に国道 428 号線が交差し、交通の要になっています。さらに、本町の交差点付近には、歯科医、コンビニ、JA 兵庫六甲淡河支店等があり、地区内には道の駅「淡河」が整備されています。古くは湯ノ山街道の宿場町として栄えていましたが、現在も当時の建築様式が残る一画は独特の風情があり、当時の面影をうかがえます。また、地区の南側の小高い台地には中世の城「淡河城址」があり、地域住民の憩いの場となっています。地域の営農については、稲作を主体に酒米の山田錦やコシヒカリ等の栽培、神戸ブランドである新鉄砲ユリ・チューリップ等の花卉栽培や酪農経営も行われており、多角的な農業経営が行われています。

相良　行博さん

○がんばる農業者（相良　行博（ゆきひろ）さん　５４歳）

１．相良さんは実家の農業を継ぐため、会社を辞め、１７年前にご両親と奥さんと一緒に４名で農業を始められました。

主に淡河の新鉄砲ユリ（神戸リリー）50ａ、淡河のチューリップ（神戸チューリップ）１０a、水稲（山田錦 80a、ヒノヒカリ 20a）を栽培され、地元では淡河花卉部会長をされています。

２．農業をしてよかったことは、サラリーマン時代とは違い、農作物の生育過程とともに、子供の成長する姿を毎日見られる事が、励みにもなり、明日への活力が沸いてくるらしいです。

3．目指す農業としては、質の良い秀品の生産を高いレベルで続ける事を習得し、「継続可能な農業の一つとして伝えていきたい。」と考えられておられます。

４．また、近年、地球温暖化に伴い自然環境が年々激しく変わる傾向の為、農業生産の適応が難しくなっており、台風、暖冬などに農業収入が左右されることが、農業が大変だと感じる反面、人間の力ではどうしようもできないことがある現実を踏まえ挑戦していくことが、農業をするということではないかと語られていました。

５．これから頑張っていきたい事は、淡河の新鉄砲ユリ(神戸リリー)、淡河チューリップ(神戸チューリップ)を買って頂いた方や贈られた方が、「市内には淡河と言う所があると知って頂き、新たな発見や情報（名前、魅力）が伝わるよう、神戸ブランドの一つとして PR を続け、又、北区淡河のお米も旨味が高く、淡河米も併せていろいろな角度から PR していきたいと語られていました。

６．相良さん曰く、農業は後継者不足と言われますが、生き生きとしてやっている農業者には、後継者ができます。なぜなら、夢があるからで、その親の背中を見ている子も夢を持つようになります。まだまだ、農業にはチャンスがあると思います。農業を「業」としようが、兼業でしようが、新規就農でしようが、自営業者としての「覚悟」があるか、無いかが大変重要であると熱く語る相良さんの姿はやる気に満ちていました。